

		4月	5月	6月
収入	近藤恵宣教師指定	265,607	191,500	207,474
	前月繰越金	1,384,305	1,332,480	1,504,480
	合 計	1,649,912	1,523,980	1,711,954
支出	近藤恵宣教師支援金	276,612	0	0
	年金・支える会経費	14,820	500	1,340
	LMJ事務局費	26,000	19,000	20,000
	次月繰越金	1,332,480	1,504,480	1,690,614
	合 計	1,649,912	1,523,980	1,711,954

献金者お名前

(教会) 岩井キリスト教会、大泉聖書教会、大磯キリスト教会、神栖めぐみキリスト教会、かもい聖書教会、自治医大前キリスト教会、下館キリスト教会、湘南ライフタウンキリスト教会、菅生キリスト教会、蓮田キリスト教会、東村山キリスト教会、日立福音キリスト教会、本郷台キリスト教会、前橋キリスト教会、松山聖書教会、水戸下市キリスト教会、宮崎北聖書キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、横浜永谷キリスト教会、横浜緑園キリスト教会

(個人) 阿部徳子、有家洋子、池田美栄子、池田百合子、井上稲子、大重和樹、岡本英次・真奈美、國井昭男、倉持芳、佐藤丈史、芝田寛二・正子、染矢睦子、高橋洋子、武田香、立石哲・早苗、田中泉、田中美智子、中井靖子、ベック・トーマス、本田恵、三浦健治、光畑京子、安田是和、横山美佐子、四宮義文・牧子、自治医大前キリスト教会個人、匿名(敬称略)

尊い献金をありがとうございました。

編集後記

困難に直面すると、思わず恐れてしまいます。能力を超えた仕事を前にして、しばしばおののいてしまいます。そんなとき神は恐れるのではなくて喜ぶことを、おののくのではなくて感謝することを教えてください。恵宣教師の証しを読んで感じました。(ひ)

恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。(イザヤ41:10)

連絡先: 〒329-0403

栃木県下野市医大前3-7-1

近藤恵宣教師を支える会

(自治医大前キリスト教会内)

Tel&Fax: 0285-44-7564

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/meg/>

E-mail: meg0_02007@yahoo.co.jp

郵便振替払込

口座番号: 00110-1 番号: 91993

加入者名: LMI世界宣教会

通信欄: 近藤恵宣教師指定献金



神様の手のうち

小さなえいじつ

わたしは神の手の中にある小さな鉛筆のようなものです。神が考え、神が書くのです。鉛筆は何もしません。鉛筆はただ使われるだけです。(マザー・テレサ)



恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしはあなたを助ける。—主の御告げ— (イザヤ書41:14)

愛する兄弟姉妹のみなさま。いかがお過ごしでしょうか？日本ももう夏ですね。バングラデシュでは、30度前後の気温がもう4か月くらい続いているのでしょうか？でも今いるバングラデシュの北にあるパルボティプールは田舎なので、夜の野外の気温は下がりますし、毎日のように降る雨の後にも気温が下がり、東京の30度より過ごしやすいかもかもしれません。湿度は日本より高く90%ぐらいある時もあります。

6月中旬にダッカからLAMB Hospitalのあるパルボティプールにやって来ました。まだ慣れていない病院で、主は虫けらの私を助けてくださっています。みなさまのお祈りと尊いささげものを感謝します。

どうしてここにいるんだろう？

4月下旬にディナジプールからダッカに戻り、また、語学学校に通い始めました。文法と会話を中心としたみんなと一緒にのコースと、聖書をベンガル語で読むプライベートレッスンを取りました。この聖書は、ムスリムの使う経典から翻訳されているので、彼らの使う言葉を学ぶのにぴったりなのです。この二つのコースを取ったので、前より少し忙しくなったものの、にぎやかなダッカに戻ったことを最初のうちは喜んでいました。でも次第に、学校に行き、ゲストハウスに戻って宿題をし、時に近くの大通りまで買い物に行ったりするものの、単調な生活に飽きてきていました。

5月下旬のころ、エネルギーが枯渇してきているような妙な感じを持ちました。座っているだけでも疲れてしまい、「どうもおかしい」と思って熱を測ってみたら、熱がありました。次の日には、腕から始まって全身に発疹が出てきました。デング熱かもしれないと思いました。でもデング熱であったとしても特別な治療方法はありません。2日ほど食事以外はベッドで寝ている生活をしました。ちょうどライチのおいしい季節です。そしてバングラデシュのライチはどここのライチよりもおいしいと言われます。食欲がなくても、ライチはたらふく食べることができました。結局、数日で回復したのですが、体力が完全に戻るには、まだ少しかかりました。

道路を歩くと牛の糞や人々のはき散らした痰を踏みそうになります。道路沿いのどぶには汚物がたまっていて、雨が降るとあふれてきます。リキシャや天然ガス自動車では街は混沌としています。人々は「私たちは貧しい。お金をください」と言ってきます。暑さと体力減退の中、「どうして私は、このバングラデシュにいるんだろう」という思いが出てきます。そして無性にごはんときゅりの浅漬けが食べたいと思いました。それは、まるで、イスラエルの民がこう言っているのと同じでした。「ああ、肉が食べたい。エジプトで、ただで魚を食べていたことを思い出す。きゅうりも、すいか、にら、たまねぎ、にんにくも。だが今や、私たちののどは干からびてしまった。何もなくて、このマナを見るだけだ」（民数記11：4～6）。イスラエルの民は、荒野でマナを与えてくださっている主にこうして不平を言うのです。私の場合は、友達フィンランド人P姉とアイスクリームを食べながらぐちを言い合うのでした。私たち二人は主がこの地に私たちを導かれたことを知っています。「でも知っていても、思うのよね。バングラデシュにいと疲れるねって」。このぐちを言っている私のために、主は次のステップを用意してくださっていたのでした。

再び LAMB Hospital に

ようやく体力が回復したころ、LAMB Hospitalのディレクター、ピーターからメールが届きました。「ボブ先生は休暇で6月17日にアメリカに帰ります。できるだけ早く病院に来てほしい」。驚きました。以前言われていたより半月早く、また半月長くボブ先生のいない間、病院のお留守番をすることになるのです。メールをもらった5日後にLAMBに向けて旅立ちました。

LAMBに来て働き始めると、毎日のように日本では経験しなかった症例に出会います。最初の手術は、私の専門外の下腿の切断手術でした。



バングラデシュ人のリンクル先生とマーサ

また外来にはフィラリアで下腿が象の足のようになった患者さんが、感染を起こしてやってきます。新生児の病棟では、肛門が閉鎖していて、細いろう孔からかろうじて便が出ている赤ちゃんがいました。また、胆管炎の診断で内科から紹介されてきた若い女性の総胆管の中には、寄生虫がいました。戸惑っ

ている私を、若いバングラデシュ人の訓練医リンクルと医療助手のマーサが本当によく助けてくれています。毎日「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから」（イザヤ41：10）のみことばを頭の中で繰り返しながら病院に向かいます。主は、確かに虫けらでしかない私を助けてくださっています。この決して有能ではない外科医の私を用いて、主は何か計画をお持ちなのでしょう。主に信頼して、7月中旬にスコットランドからダンカン先生が来てくれるまで乗り切りたいと思います。

Prayer request

1. LAMB Hospitalで必要な働きができるように。
2. ベンガル語の学びのために。（9月までは語学の学びが中心の予定です。）
3. 英語でのコミュニケーションのために。（病院のスタッフ、同僚との意志疎通のためにまだまだ英語力が不足しています。）
4. 派遣教会の自治医大前キリスト教会のために。
5. 日本にいる母と姉の救いのために。